



飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

11/1

足 奥田利さん100歳！万歳！ 賞状やお祝いの花束などを贈呈 腰丈夫で、痛いところなし！ 元気な100歳



今回100歳になられたのは、大正10年11月1日生まれの奥田利さん。神岡町山田で生まれ、学校卒業後は滋賀県の紡績工場へ働きに行かれました。「大変だったけど、楽しかったよ！」と笑顔で淡々と話されているのが印象的です。

縁あって、現在の東町に嫁がれ、旦那さんは亡くなられて35年が経ち、今は娘さんと2人で暮らしてみえます。

奥田さんは手先が器用で、今も週1回のデイサービスに通いながら、家では刺繍を楽しんでみえます。雑巾や布巾を綺麗に縫ってみえ、「針に糸を通すのも眼鏡無しでできるんですよ！」と、一緒に暮らす娘さんもびっくり。

足腰も丈夫で、杖なども使用せず歩き、正座もしっかりできます。膝も痛くない、痛いところはないというのも長生きの秘訣です。



11/3

飛 街なかポケットミュージアム」がオープン 騨市の歴史や民俗を伝える小さな博物館



飛騨古川さくら物産館蔵ホールに「街なかポケットミュージアム」がオープンしました。市の歴史や文化、民俗などを市民や観光客に発信しようと、市が街歩きの出発点となる同館の蔵ホールを借用して開設しました。

初回は「飛騨の糸引き工女」がテーマ。飛騨から信州の製糸工場へ出稼ぎに出た女性たちの暮らしや市内の製糸業などに関する史料を展示しています。

オープニングセレモニーで都竹市長は「観光の動線にあたる場所で市と町の歴史や文化を観光客に伝えることができ、旅の印象も上がるのでは」と挨拶しました。昭和20年代に古川町や愛知県の製糸工場で糸を引いたことがある保木和子さん（古川町）は「いろいろな写真を目にできて懐かしかった。若い人にもぜひ、工女のことを知ってほしい」と話していました。



11/4

8 宮川町の道下利九郎さんが全国公平委員会連合会から表彰 年間にわたり市職員の利益を守る

平成25年6月から飛騨市公平委員を務めてみえる宮川町の道下利九郎さんが、人事公平制度の確立に貢献されたとして全国公平委員会連合会から表彰され、都竹市長から表彰状が伝達されました。

公平委員会とは、市役所に勤務する職員の利益の保護と公平な人事権の行使を保障することを目的に置かれており、市の職員が納得できない処分を受けた時に行う不服申立て等について審査を行う合議制の機関のことで、市内では道下さんの他に2人の委員が選任されています。

道下さんは、8年以上にわたって活動され、その功績が顕著であるということから今回の受賞となりました。都竹市長は「市政にご尽力をいただき、感謝しております」と謝辞を述べ、労をねぎらいました。



11/5

困「ヒダスケ」がグッドデザイン賞を受賞 りごとを地域資源に取り組み評価

市が運営する関係人口創出事業「ヒダスケ! - 飛騨市の関係案内所 -」が、今年度のグッドデザイン賞を受賞しました。

ヒダスケは、さまざまな市民の困りごとをネット上に公開して、解決のための協力者を市内外から募集する仕組みで、参加者には野菜や電子地域通貨などの「お礼」が渡されます。

グッドデザイン賞審査員は「人口減少で顕著になった地域課題に対して、『市民の『困りごと』』を起点に、『支え合う』という新たな関係価値を生み出すことだった」と指摘。実績などを踏まえて「関係人口を拡大させるヒントが詰まった、素晴らしい事業モデルと言える」と評価されました。

受賞を受け都竹市長は「地域の困りごとが、ヒダスケを通すと地域資源になる。市に心を寄せてくれる人がいるのは、街の元気に繋がる。過疎地のデザイン構築のモデルになれば」と話しました。



11/6

地域の方に感謝を込めて児童ら演技

特レポ

河合小学校の学習発表会「河合っ子座公演～伝統文化を引き継ごう～」が同校体育館で開かれました。児童の郷土愛を育もうと1・2年生が民話劇、3・4年生は飛騨かわい匠太鼓、5・6年生は地歌舞伎を演じました。

出演したのは全校37人。児童たちは保護者ら約100人が見守る中、練習の成果を堂々と披露し、会場を沸かせました。

5・6年生(18人)は毎年恒例の地歌舞伎を約1時間にわたって熱演しました。演目は鎌倉時代の実話を基に描かれた、曾我兄弟による父親の仇討ちを題材にした「寿曾我対面～工藤館の場～」です。児童たちが見えを切るたびに会場から大きな拍手が送られていました。ステージを終えて、朝比奈三郎役を演じた土田結夢さん(6年)は「ミスもなく、今までで一番上手にできたと思います。歌舞伎は大好き」と笑顔を見せていました。



11/13

山之村小中学校の統合から40周年を記念し式典を開催 地域で守り続けた伝統と歴史を後世へ

旧森茂小中学校と旧下之本小中学校が統合されて昭和57年に開校した神岡町森茂の山之村小中学校が、統合から40周年を迎えたことを受け、記念式典が行われました。

これまでの卒業生を代表して登壇した下林史弥さんは在校生に向け、「ここで過ごした9年間は、これから先の人生に必ず生きてきます。一日一日の生活を大切にして過ごし、これまで築いてきた校風や伝統をさらに発展させていってください」とエールを送りました。

また、在校生を代表して児童生徒会長である中学3年生の中井鈴太さんが登壇し、同校で過ごした9年を振り返りました。「地域の皆さんとのつながりは、いつでもどこにいても私たちの心の支えになります。来年、自分は他の地域に行きますが、山之村を誇りに思い、生活していきます」とメッセージを述べました。





11/16 教育振興に多大な貢献をされたことを称える 古川町の中村幸二さんが瑞宝双光章を受章

令和3年の高齢者叙勲において、古川町三之町の中村幸二さんが瑞宝双光章を受章されました。

永きにわたって教育業務に従事され、教育振興に多大な貢献をされたことに対して贈られたもので、市役所で伝達表彰があり、都竹市長から中村さんへ勲章などが手渡されました。

中村さんは昭和8年生まれの88歳。昭和31年から教員として勤務され、平成6年3月に当時の清見村立清見小学校の校長を最後に退職されました。

都竹市長は「人生でずっと長く教え子から慕われる『先生』という仕事はうらやましい。今後もさらなるご活躍を」とお祝いを述べました。中村さんは「この世に生まれ、こうして生きてこられたのは親のおかげ」「地域の皆さんや先輩後輩、家族など多くの方々に支えていただいたおかげで今があります」と、何度も感謝の言葉を述べておられました。



11/28 研究の展望などを語る スーパーカミオカンデ観測25周年記念講演会

神岡町にあるニュートリノ観測施設「スーパーカミオカンデ」の観測25周年を記念し、同施設での観測成果で2015年にノーベル物理学賞を受賞した東京大学宇宙線研究所所長の梶田隆章卓越教授らの特別講演会が飛騨市文化交流センターで開かれました。

あいさつで梶田先生は「スーパーカミオカンデが長きにわたり研究を続けてこれたのは、支援してくれた飛騨市や市民の皆さんのおかげです。感謝しています」と述べられました。

その後、同研究所の中畑雅行教授が、観測施設の設立経過や目的などについて語り、「ニュートリノの観測によって、素粒子や宇宙の謎が解き明かされていく」と結びました。続いて行われた座談会では、両氏に加え、横山広美先生も参加され、施設設立時の裏話などを披露し、研究の展望などについても語り合われました。



11/30 子どもたちの活動を一所懸命に支援した方々へ 市内の1団体3個人が「岐阜県地域子ども支援賞」を受賞

令和3年度の「岐阜県地域子ども支援賞」の伝達表彰が市役所でありました。市内で受賞されたのは古川小学校PTAの皆さん、菅沼明彦さん、大下勝久さん、田近純子さんの1団体、3個人です。

この賞は、子どもたちが地域で行うさまざまな活動を一所懸命に支え、地域の皆さんから高い評価を受けている個人や団体の功績を讃えることで、地域の教育力の向上や地域全体で子どもを育てる環境整備を図ろうと、県が平成15年度から設けています。沖畑教育長は古田知事からの表彰状を手渡し、「地域の皆さんのお声がけや見守りに子どもたちは気づいて感謝し、『大事にされているな』と思って育っています。そうした基盤が、心の栄養として子どもを育ててくれます。本当に感謝しています」と話し、今後も継続した活動をお願いしました。

